



釧新郷土芸術賞に輝く

受賞者の横顔②

縦50センチ、横60センチの紙いっ

ぱいに「樹」の大文字。字の形や墨のかすれ具合も利用して樹木を表現している。視覚に分かりやすく訴える作品は中河さんにとって新しい挑戦だ。

1954年白糠町生まれ。白糠高校で後藤巨石さんに教わり、書道の芸術としての面白さに触れた。道

教育大釧路校では故山口野竹さん、故辻井京雲さんに習い、教員となった後も辻井さんに師事。根室から札幌に通うなど研さんを積んだ。

辻井さんの方針に従い、学生時代から漢字や近代詩文を中心に多くの作品展に出演。2008年に全国規模の毎日書道展で会員の作品から選ばれる会員賞、10年には北海道書道展で会友として準大賞を受賞した。現在は全国、全道規模の作品展で審査員を務めるほ

か作品の出展も続けている。勤務先の釧路商業高校では書道部を指導し、過去3度の全国高等学校総合文化祭（総文祭）出場を果たすなど後進の育成にも当たっている。

書道の魅力について「自分の心を文字に乗せて書ける」と語る中河さん。今後は「釧路の情緒を書に表現し、書道の良さを少しでも多くの人に伝えられるような活動をしていきたい」と話している。

（片山新平）

書道

中河 濤人さん(65)＝釧路市

自分の心文字に乗せて